令和2年度 10月 システム監査技術者試験 解答例

午後Ⅰ試験

問1

出題趣旨	
<p>DX（デジタルトランスフォーメーション）への取組が、企業の経営において重要となっている。IoT、AIなどの技術を何らかの形で活用し始めている企業も多い。一方で、DXを推進する上では、既存システムの老朽化、人材の不足、推進体制・ルールの整備など、様々な課題に直面することもある。そのような課題への対処が十分でない場合は、DXに取り組んでいながら、経営に寄与する十分な成果が得られないリスクがある。DXの推進状況を監査する場合には、そのようなDX推進におけるリスクへの対処ができていないかを見極めることが重要となる。</p> <p>本問では、DX推進の課題とリスクを理解した上で、必要なコントロールを想定し、監査ポイントと監査手続を設定する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	分析に必要なデータが取得できるように“システム再構築計画”を見直していること	
設問2	PoC報告書を閲覧して、活動テーマに即した仮説が設定されているかどうかを確認する。	
設問3	人材類型定義書を閲覧して、DXに必要な人材が明確になっていることを確認する。	
設問4	他部門のデータを活用するための責任や権限を明確にする必要があるから	
設問5	DX-PJ定例会の議事録を閲覧して、進捗管理指標が明確かどうかを確認する。	

問2

出題趣旨	
<p>システム監査人は、経営に寄与するという目的に沿ったシステム監査中長期計画、年度計画、個別計画を策定し、実施することが求められる。また、監査対象や監査テーマの選定、監査の実施体制や役割、監査手続などを計画する上で、常に最新の技術動向、経営方針、社内の環境などを視野に入れながら、これらの計画を策定する必要がある。さらに、計画的な採用・異動などで監査部門の人材を補強するとともに、要員の教育やリソースの最適な配置を実施し、監査用ソフトウェアの導入をはじめとした監査環境の整備も進めていく必要がある。</p> <p>本問では、上記の点を踏まえ、システム監査中長期計画や年度計画、個別計画を策定する能力、計画に基づいた適切な監査手続や監査ツールの利用を立案する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	戦略的重要度の観点も追加して対象システムを選定する。	
設問2	(i) プロジェクトの状況を適時に把握し、早期に改善策を提案することができる。	
	(ii) 監査人が出席することで、進捗に遅延があってもその根本原因を隠すことができる。	
設問3	R社の経営戦略上重要なAIなどの技術について評価できる人材の育成	
設問4	監査の実施状況やノウハウを共有でき、監査業務を効率化できる。	
設問5	アクセスログの全件を集計・分析して不正な端末利用がないか確認する。	

問3

出題趣旨	
<p>近年、IT ガバナンスの重要性が増加している。“システム管理基準”についても、経済産業省は平成30年に改訂し、IT ガバナンスに関する内容を大幅に拡充している。具体的には、IT ガバナンスに関わる組織体制を示し、その中における経営陣や情報システム戦略委員会などの各種委員会、さらには情報システム部門や利用部門などが果たすべき役割を明確にし、それを受けてIT ガバナンスを構築・運用する際の指針と着眼点を例示している。このような基準の整備と併せて、IT ガバナンスへの関心の高まりもあって、IT ガバナンスに関する監査への期待も増してきている。</p> <p>本問では、システムの有効性を着眼点とする内部監査を通じて、IT ガバナンスの適切性を評価・検証する場合のリスク、コントロール及び監査手続に関して必要な能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	自己評価対象案件の投資効果検証結果が、オーナー部に留まっているので、経営会議に伝わらない。	
設問2	開発するシステムが利用者ニーズに合致しているかどうかを確かめていること	
設問3	① ・活用状況のモニタリングの仕組みを構築する。 ② ・活用状況の検証予定時期を定めておく。	
設問4	利用継続か廃止を判断するための基準値を稼働前に定めておく。	
設問5	経営企画部が改訂原案に賛同していることをヒアリングで確認する。	